

普及活動情勢報告（令和5年10月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

イチゴ出荷箱の箱折り作業の委託について検討

～宿毛市農福連携作業説明会～



9月19日、宿毛市役所で宿毛市と幡多農業振興センターによるイチゴの箱折り作業の説明会が開催され、宿毛市農業公社1名と福祉事業所3カ所の担当者6名、関係機関6名が参加しました。

農業公社からは、箱折り作業の説明と実演を行い、実際に参加者にも箱折り作業を体験しました。また、作業の委託について検討しました。参加者からは「これだったらできそう」、「持ち帰って検討してみる」などの意見が聞かれました。

農業改良普及課からは、農福連携に係る事業の説明を行い、あわせて箱折り作業体験も支援しました。

今後は、イチゴの箱折り作業が実施できるように関係機関と連携し、支援していきます。

地域との繋がりを深めるために！

～（農）ふぁー夢宗呂川 地域意見交換会の実施に向けて～



9月19日、土佐清水市の（農）ふぁー夢宗呂川の役員会が開催され、組織役員8名、関係機関5名が参加しました。

（農）ふぁー夢宗呂川では、2年前に地域住民との意見交換会を開催しており、今回は第2回目の開催に向けた実施内容等の協議を行いました。農業改良普及課から、事前アンケートの実施や意見交換会の進め方、実施スケジュールなどを提案し、役員からは「“集落を維持するための後継者確保”をテーマに意見交換したい」という意見がありました。

今後は、年内の意見交換会開催に向けて、引き続き支援していきます。

ネダニ対策を徹底しよう！ ～展示ほの設置（ニラ・ネコナカットフロアブル）～



9月22日、黒潮町田野浦地区で高知県植物防疫協会が実施している農薬の展示ほを設置しました。品目は「ニラ」で、毎年ネダニの被害に苦慮されている生産者のほ場で薬剤処理を行いました。

今回は、協友アグリ株式会社様の協力を得て、「ネコナカットフロアブル」の灌注処理を行いました。生産者からは「処理量が多いが、ネダニには毎年苦慮しているのでなんとか抑えたい」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、農薬の処理前と処理後で、株の掘り取りによるネダニの密度を比較し、農薬の効果を確認します。

稲刈りを体験しよう！

～四万十市立具同小学校 食農教育授業～



10月4日、四万十市入田で、具同小学校の5年生約60名が総合授業の一環として、6月に田植え体験をした水稻の収穫を行いました。

当日は、集落営農法人「(農)入田村」がコンバインで稲刈りの実演を行い、農業改良普及課は、稲の手刈り方法を説明し、児童らの稲刈り体験を支援しました。

小学生らは、苦戦しながらも一生懸命に稲を刈り取っており、「お米を作る大変さが分かった」と話していました。

農業改良普及課は、今後も小学校の総合授業を通して、食農教育を支援していきます。

集落協定を基にライスセンターの運営を

～大宮水稻検討委員会～



10月5日、四万十市大宮地区で委員6名と農業改良普及課2名が参加し、大宮水稻検討委員会を開催しました。委員会では、(株)大宮産業が新たに取り組むライスセンター事業の収支計画案について協議しました。

農業改良普及課は、収支計画案を説明し、最初の運転資金を集落協定に相談することを提案しました。委員からは、「借金を早く返したい」、「集落協定は協力してくれるのか」等の意見が出ました。

協議の結果、地域の集落協定に運転資金について協力を依頼することになり、その結果を次回の検討委員会で報告することになりました。

今後も地域の検討を支援し、(株)大宮産業の臨時総会でライスセンター事業を提案できるように進めていきます。

腰を痛めないように、アシストスーツの効果を確認！

～JA幡多地区各支所ユズ出荷説明会～



9月28日にJA中村支所野菜集荷場、10月12日に三原村ゆず選果場で、ユズの出荷説明会があり、2日間で生産者と関係機関合わせて31人が参加しました。

農業改良普及課は、ソフトタイプのアシストスーツの試着を実施しました。人によって体型、背丈が違うため、装着時に違和感を覚える人もいましたが、試着した人の中には、「背中や腰が楽だ」という声もあり、アシストスーツの効果を実感して頂きました。

農業改良普及課は、これからも集落営農組織などのアシストスーツの需要が期待される組織や個人に対して紹介していきます。